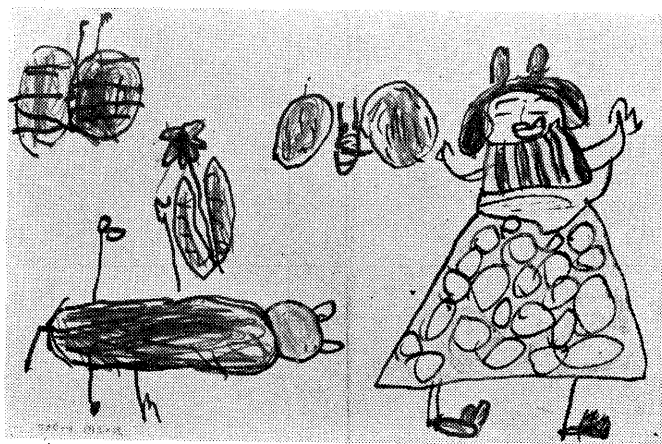


幼児の造形 (Ⅲ)

林 健 造

三月のつめたい風が去ったあととは、美しい春の草花がいっぱい顔を出すように、園にも新しい子どもたちがやってきました。小さな胸にさげた白いハンカチが花びらのようです。



5才6ヶ月 図 式 の 絵 (本文23頁参照)

沈丁花の甘い香りと小ちやな魂

チューリップのあどけなさと新鮮さ

タンポポの明るさと健やかさ

春の園に咲くそれぞれの花のように、どの子どももみんな花の子どもたちです。

この新しい花の子どもたちを園に迎えたとき、誰でもがきっと、

「このタンポポさんたちが、やがてはあの丸い銀色の綿毛から、一人一人大空の中に、力強く飛立っていく日のために、こころしいではおられない」という気持ちを強く感じられることでしょう。そしてそれは、なんと新鮮な緊張感であることでしょう。

話の窓

I ある映画の話

こんど岩波映画がつくった「絵を描く子どもたち」という映画は、今、大きな話題を投げかけています。試写を見た文相や文化人、それから親や教師に強い感動を与えているようです。やがて一般の常設館で公開されることと思います。

これは、東京の下町のある学校の一年生が入学したときから十月まで七ヶ月のあいだ、教室に望遠レンズをつけたカメラをもちこみ、あるいは問題の子どもを追って校外の生

活、家庭の生活などをまったく自然に、そして力強く写した記録映画です。

まず舗道にぐるぐる丸のような落書をして、いる幼児の姿がこの映画のブローグ(序曲)です。それでもこの子はこのわけのわからないうようなず巻(なぐり描き・錯画)を「チユーチユーネズミ」とよんでいます。

錯画に意義づけをする段階です。

一年生に入ってきた子どもたちは、最初の図画の時間に紙を配られてもすぐは描きだせないで、まわりの子を見たりしています。空白は恐怖である」という言葉がありますが、とうとう一時間中何もかけなかった子どももいます。

五週間も同じような、画面の真中に叙しそうな家をぼつんとかくことを繰返しているM君、アパートの一室を借りている彼の家はいつも留守勝ちです。六月になると、もう先生やお友達とも慣れて、けんかもします。先生の肩ののって先生に「まいった」といわせませす。この指導に当たっている若い男の教師は、この頃に子どもの精神の発達段階が闘争の時期(七才―十一才)に入っており、この攻撃的感情を發揮させる時期を抑圧すると次の協調する精神が成長を阻害することをよく知っていて、決して、うるさいなどと叱りません。

M君は、そうして先生に甘えるようになって

た頃、母鯨からお乳をもらう子という絵を描きました。

Tさんは神経の細かい内向型の女の子です。体育の時間に鉄棒のところまでかけっこがありました。よいいの合図で身がまえた表情の無邪気な真剣さは、きっと自分がパンビのような速さで一等になることだけを考えていたことでしょう。空想時代であり、自分とパンビとが一緒になってしまふ未分化の時代でもあります。

ところが、かけっこの結果はいちばん最後でした。悲しくなって泣いてしまいます。次の図画の時間にTさんはなきじゃくりながらまず中央に真花な花を荒々しいストローク(筆致)で描くと、こんどはそのまわりを紫色で塗りかこんでいく姿が部分天然色で鮮やかに写しだされます。

アメリカのアルシュウラーとハットウィツク両女史がそのすばらしい研究「色彩と心理」の中で、「赤色は強い衝動や興奮のときに、紫色は不幸な、憂うつなときに使用される」と述べていることが生々しい現実との符合となつて私どもをおどろかせます。

子どもたちはどんどん成長していき、いろいろな表現材料にも慣れてきます。フィンガーペインティングや粘土あそびは「汚れたい」という子ども本来の欲望を満たしてやり、と

くに夏の川遊びや動物園の見学は適当な刺激剤として、つねに新しいものを求め、実験し作りだそうとする子ども創造力を伸ばすことに大きな役割を果すことを見せられます。ところでこの青年教師は、たえずにこにこしてつねに笑顔を忘れません。このことで子どもの心は解放され、安定感をもつようになります。

決して、教師が手を加えたり、あら探したり、忠告的批評をしません。子どもに自信と誇りを持たせるために作品をほめ、頭をなでてやって愛情を示しています。そして、常に子どもたちが積極的に絵や工作がしたくなるような精神的・物質的な環境とふんいきを作つてやり、材料を与えて励ましてやったことが、七ヶ月目の十月頃の健康な、自由な、のびのびとした表現をするまでに成長させたことを生きた記録として見せてくれます。

II 教師の任務(私もできる…)

ずいぶん長く映画の話をしましたが、とくに皆さんに汲みとって頂きたいことは、●子ども達の発達段階と表現の關係●自由なふんいきの中では、子どもは無意識に感情や心の中にあるものを描きだすということ●子どもの造形を指導する教師の役割ということです。

とくに「私は生れつき絵が下手で、幼児の

絵の指導はとてできない」などと思っておられる自信を喪失されている方のためにはぜひこの若い教師のやり方をおすすめします。

まず明るい笑顔で子どもに接すること、それは子どもの心に安定を与え、自由でたのしい、絵を描きたくなるようなふんいきを作ることでしよう。次には、賞めてやること、励ましてやること、ときどき刺戟を与えてやることです。このことは子ども自体に、自分の表現に対して大きな自信と誇りと喜びごとを与え、その創造力を励ますことでしよう。それから次に環境を整えてやること、材料の準備や後始末をすることに骨おしみをしないこと。造形活動は絵具をといたり、粘土を練ったり、その事前の道具だてから活動中の世話（袖をまくってやったり、ひっくりかえした絵具をふいてやったり）、それから後始末となかなか大変なことです。しかし、子どもたちへの愛情がもて、骨おしみをしないということができれば、以上のやり方は絵に自信がないからといわれる方でも容易にできる方法であり、しかも、「子どもの中にある創造力を発達させ、子どもの生れつきもっている美に対する反応の能力を励ますことが教師の任務である。」とする以上の考へ方は、今や欧米においても、我國においても、最も進歩的な美術教育の方法であるといわれています。

Ⅲ 発達段階

子どもの造形表現の発達は、一定の次のような段階を通過してのびていきます。

1、錯画期（なぐりがきの時代・ぬたくり期）……二才——三才

イ、無秩序の段階（意識的な目的のないいじくりまわしている時期）

ロ、統制の段階（何かある形を意識的に作ろうとする時期）

ハ、註釈の段階（ブッパーなどと説明をつけながら描いている時期）

2、前図式期（象徴・空想の時代）……四才——六才

*ある意味を一定の形で表現することを図式といいます。

3、図式期（カタログ期・自己主張の時代）……七才——八才（見出しカット参照）

4、*描かれたもの相互の関係はなく、カタログのような形式化された絵をかく

5、ギャング期（遊び仲間の時期・協同の時代）……九才——十一才

*共同製作などができるようになる時期

6、擬レアリズムの時期（過渡期）……十一才——十三才

*やや写実的な傾向をもつ時代

7、写実期（決定の時期・思春期）……十三才——十七才

この分け方は、学者によりそれぞれ多少の違いがありますが、以上の発達特質をしておくことは、子どもの造形を解釈する手がかりとして大切なことです。もちろん、絵の表現では、次の発達段階に入った描き方をすれば、前の段階の描き方はもう再び現れないというものではないこと、また子どもの素質・環境等の違いによって個人差もあり、必ずしもこれにとられる必要はありません。

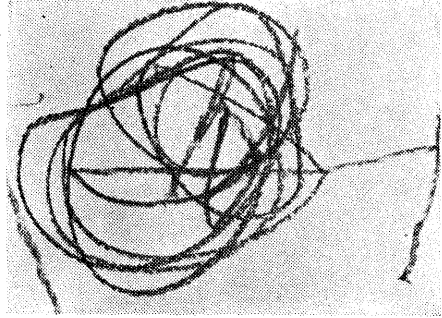
実技の窓

○フィンガー・ペインティング（指絵）

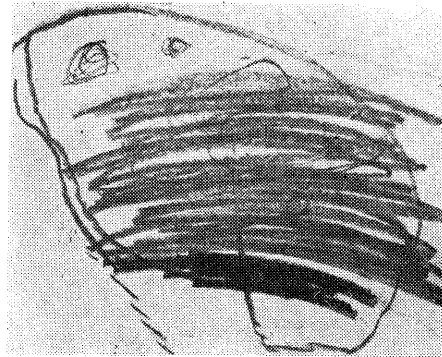
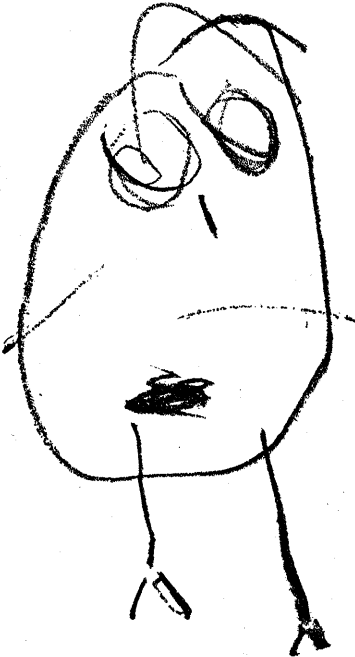
うっかり橙をとったままの赤チンキなどを札の上におき忘れりして、帰ってきてみると、机の上や壁などにいっぱいいたずらがきかされている。そのそばには、案のじょう指をまっ赤に染めた子どもが満足したような顔をしている、まったくあきれて叱るにも叱りようがないなどという経験は、幼稚園でも、あるいは家庭でも一度位は誰もが味ったことがあるでしょう。フィンガー・ペインティングは一九三一年頃、アメリカのショウ女史がローマのショウスクールで幼児教育をしている時、ちょうどこれと同じ経験からヒントを



←無秩序の錯画
(1才3ヶ月)



→
円型錯画
(満2才)



↑註釈の錯画
(2才10ヶ月)

←象徴錯画(3才11ヶ月)

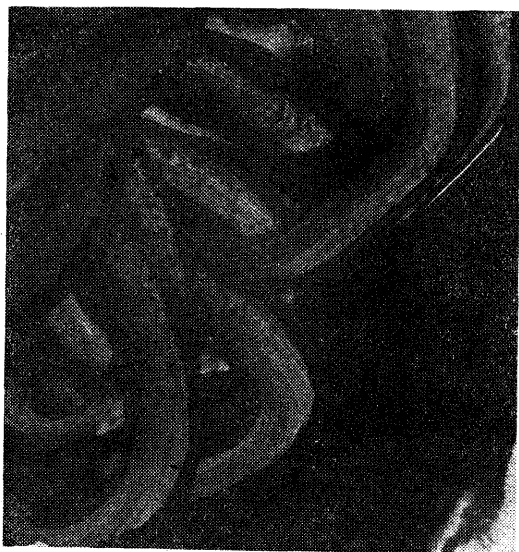


図 フィンガー・ペインティングのやり方



○材料と作り方
さて、そのフィンガー・ペイントの材料ですが我が国でも最近はその銘をうって市販されているものもあります。また指絵にも使えるものとして粉絵具もでています。しかし最も手近かな簡単な方法としては、メリケン

○材料と作り方
さて、そのフィンガー・ペイントの材料ですが我が国でも最近はその銘をうって市販されているものもあります。また指絵にも使えるものとして粉絵具もでています。しかし最も手近かな簡単な方法としては、メリケン

得て、指で描くということへ子どもの異常なまでの喜び、そしてドロッコ遊びのようなもの、しかも無害なものを」といろいろ考えた末に発見された方法です。
この方法は、欧米、とくにアメリカの幼稚園の絵画指導の大部分を占めるほど大きくとり上げられており、最近では我國の幼稚園・小学校の低学年などでもさかんに行われておりますので、その教育的な意義や方法についてお話ししていきます。

○教育的意義と効果
「フィンガー・ペイントはドロッコの孫だ」といわれるようにこれは子どもの大好きなドロッコ遊びの延長だと考えてよいでしょう。簡単な材料で、遊びを通して思いのままに自己表現でき、しかも汚れたらいい子どもの本能的な欲望を満足させることができるという点にこの方法を教育に採り入れた大きなねらいがあります。
「ぼくは背中の中の真ん中で描いているんだ」

ショール・スクールの幼い子どもがこう叫んだといえます。指先だけでなく、体全体を動かすこの指絵の運動は、たしかにこの児の名言のとおりです。したがって何らの抵抗もなく、全身運動として行われるために、心の抑圧を解放させるための最も適した方法だといわれ、幼児の精神治療に役立てられています。したがって、心の抑圧と非常に関係の深い病気の治療にすら役立っています。例えば、夜尿症を癒したり、ドモリの矯正に効果をおげたり、お化けがこわい子の恐怖をとりのぞいたりした実例は、ミス・ショールのスクールだけでなく、日本の幼稚園や小学校でも数多くの報告がなされています。

粉でややかための糊をつくりまします。これに好きな色の粉えのぐやボスター・カラーを入れてよくかきまぜて、いわば色の糊を作りまします。今までもペースト(糊)図案と呼ばれる図案の方法がありますが、これは絵の具に糊を入れた感じであったのに対し、これは糊に絵の具を入れる感じがします。

次に、絵の具の腐敗を防ぐためにわずかの防腐剤(薬屋でヘキサチルカサルチルサンを求めればよい)を入れます。なおこの外に、粉石鹼を入れればすんでから手を洗う時に容易に色がおちやすく、また、グリセリンを入れれば、絵が乾いてから紙がくるくるまらなくなります。このようにすればたいへん丁寧な作り方ですが、ごく普通には、糊を作った絵の具を入れるだけでやっている方が多いようです。絵の具の色は、刺戟のつよいはげしい原色はなるべくさげたいものです。一般には、黒・青・こげ茶・濃い緑・深みのある赤などがよく使われています。

紙は、ケント紙のような、あまり水を吸わない紙で表面が滑らかなものがよく、その他ハトロン紙や、色画用紙などもおもしろいと思います。

○方法

やり方は紙をまます、水に濡らして、机や画板の上にピッタリおきます。この場合、体か

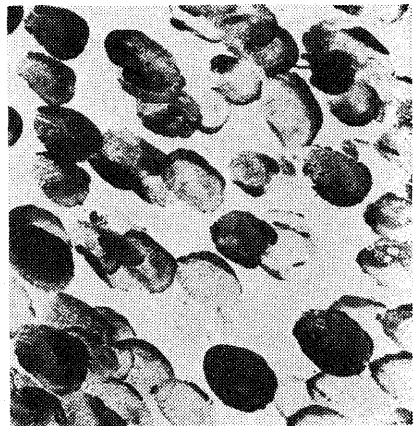
らやや離れた場所においた方が子どもの衣服を汚さずにすみます。子どもの袖をまくっておくことや、腹のところに新聞紙を巻いてやることなども始める前の準備としては大切です。そのぬれた紙の上にかたまりの糊絵の具を配ってやり、これを紙の上でよく手でぬりひろげさせ、子どもの好きなようにかきまぜたり、ひっかいたりさせればよいのです。子どもたちは消したり描いたり、指先だけで描いたりします。でき上った作品は、陽なたにほすと、そりかえるのでこれを蔭ほしにし、乾いたら重ねて軽くおししておくようにします。

○注意点と展開

このフィンガー・ペインティングの教育的な効果は、自由さと、何べんでも消したり、描いたりできて、いわゆる作品主義に陥らないという点にあります。

したがって、いろいろな技法を教え込んだり、絵らしくまとまったものを描かせるようなことは望ましくありません。

これらの仕事のあとに、別の紙をあてて、絵をうつしとれば、版画のような効果があります、このやり方では、指絵の上に、木の葉や糸くずや、キャラメルの包み紙などを自由にのせて写しとることもおもしろいでしょうし、こんどは汚れた手を別の紙にたたいて指



型をつけることも、子どもの自然な遊びの中で、図案の芽をそだてることにもなるでしょう。このように教師の創意によっていろいろな角度に発展させることができます。

まあ、心配したり、ためらったりすることをやめて早速やってみられることです。そして子どもたちがどんなに眼を輝やかし、どんなに喜ぶかをまのあたり見たときに、そこからきつと大きな、そしてすばらしい収穫をされることでしょう。(お茶の水大講師)

(参) 粉えのぐ……………フレイベル館

(二) 罐・八〇円 各色二〇c.c.入り

フィンガー・ペイント……………資生堂